



## 太陽は何でできているの

### 水素とヘリウムからできている

太陽は、水素とヘリウムの非常に温度の高いガスからできています。全体の約75パーセントが水素、約25パーセントがヘリウムからできています。

### 表面の温度は約6000

太陽は、強い光と高い熱を出してかがやいています。

太陽の表面の温度は、約6000もあります。鉄をとかず溶鉱炉の温度が1500ぐらい、金や白金でも2000ぐらいでとけてしまいます。太陽の表面の温度は、ほとんどの物質がとけてしまうほどの、高い温度なのです。

太陽の内部になるほど、温度が高くなります。太陽の中心部では、約1500万にもなっています。

### 核融合反応による光と熱

このように、太陽が非常に高い温度になっているのは、ふつう、地球上では見られない核融合反応が起きているからです。核融合反応とは、太陽をつくっている水素が、ヘリウムに変わっていく反応(二つ以上の物質がいっしょになって、変化が起こること)のことです。このときに、太陽は、強い光と高い温度を出して、かがやいているのです。

(監修・国司 真)

